病院図書室　14(3):115-117, 1994

図書館員の四季

新病院の完成に向け新たなスタート

市立長浜病院　　吉川　信子

青田を走り抜け、伊吹山の麓より長浜市（住みよい町・ランキング全国２位）へと車で25分。この道程を結婚以来19年間飽きもせず、稲の生育をわが家の稲と比較しつつ楽しみながら通っている。皆さんの脳裏には、もう田園風景が広がっていることでしょう。このように自然の満々としている中を通り過ぎると市街地に入る。そのほぼ中心地に当院はある。平成８年には、この田園の中に新築移転される予定で県下を制する病院として着々と建築が進んでいる。

私と図書室との出合いは、23年前高校を卒業し、医局事務として臨時採用された時に始まった。その時、図書は病棟の一角に所蔵されてはいたが、並んでいるだけで、管理はお粗末な無人の館であった。その館を医局の隣に移し、整理（分類、カード作成）を始めた。当初は図書管理もこんなものかと侮ってスタートしたが、近畿病院図書室協議会に入会し、勉強させていただくチャンスを得て、私は驚嘆した。『何と手掛ければ手掛けるほど深くて広い仕事だ』。後悔と自分の気弱な性格が浮き彫りになり自己嫌悪に陥ってしまった。しかし、このままではと目覚め病図協のお力を借りて、今日に至っている。今では、新病院への新たなスタートに伴う夢と抱負は計り知れない。

現在、医局と看護局の図書室は分散管理されているが、新病院へ移転と同時に集中管理する予定である。今まで、看護局へのサービスを怠っていた罪滅ぼしに最大限の誇りと人情を持って答えていきたい。幸い７月からCD-ROM も導入できることとなり、ますます拍車がかかる。現体制兼務者３人でいかに乗り越えるのか不安もあるが、清閑で利用者が入りやすい図書室、また信頼あるライブラリアンを目指し、決心は堅い。

総合目録作成に思う －編集協力員を求む－

京都市立病院　重富　久代

『総合目録英文・和文』の改訂版の発行に向けて、1990年、各病院にデータ更新の提出を求めてから５年になるが、編集作業は思った以上に難航し、暗礁に乗り上げてしまった。

これは、日常業務の合間をぬって作業を行うため、何回もマニュアルを見直す必要があり、はかどらなかったことや、また内容的には、今回から JMLA や学情センターの目録にならい“個別誌名方式”を採ることになったため、新誌名として登録する数が多く、前後の誌名変更の注記の記入と修正など、けっこう作業が複雑であったことが挙げられる。

この方式は、後年誌名が変わった古い年代の雑誌でも、そのページさえ見ればその所蔵がわかり、所蔵機関欄に分担保存を明記するという協議会の目標とも重なり利用面からのメリットは大きい。しかし、私個人の意見としては、参照さえあればある一つの雑誌の歴史が一貫して見られる面、旧式の方がよい。

ところで、最近誌名に単語の頭文字表記が多くなってきている（個別誌名は表題紙の記載どおり記入することが原則）。例えば、ＡＪＤＣ： Am.J.Dis.Child.は誌名として記名されているが、ＡＪＲは表題誌名となっているのに記名資格（参照はあるが）を得ていな